

「親子で目指そう富士登山」スタート

今年度は、「自然と親しむ子ども山登り教室」を始めて10年目となるため、富士山を最終目標として「親子で目指そう富士登山」というタイトルで実施することとした。さすがにネームバリューのある富士山を目標としたため、子どもたち（親子）の参加が多かった。どうしてもスタッフ不足等で断らざるを得なかった親子がいたことは大変申し訳なく思います。

説明会を皮切りに、最初の登山となる丸山からスタートしました。みんなで安全に気をつけて、最後まで楽しい登山を実施できるよう進めていきましょう！

★説明会(4月2日)

参加者 子ども7名、親御さん5名
スタッフ4名、会員(健常者)1名

今回は、過去に参加経験のある3家族の他に、4家族から参加申し込みがあり、当日はスタッフ4人を含めた17名という賑やかな説明会となった。

登山の進め方や注意点などを説明した後、昨年実施した第9回自然と親しむ子ども山登り教室のビデオを見ていただいた。

今年度は、誰もが知っている富士山を目標としたため7家族8人の子どもたちの参加となった。天気に恵まれて、安全な登山を行っていたい。
記：網干

親子で目指そう富士登山（第10回自然と親しむ子ども山登り教室）の説明会を実施した。

★丸山(4月17日)

参加者 子ども8名
スタッフ7名
親御さん6名

今年は「自然と親しむ子ども山登り教室」を開始して10回目となるので、一つのイベントとして世界遺産に指定された富士山を最終目標におく「親子で目指そう富士登山」として実施した。内容は、いきなり富士山に登るのではなく、これまでと同じように、低山から経験し、

段階を踏んで5回目に富士山を目指す計画としている。

第1回目となる登山は、奥武蔵の丸山だ。標高は960mだが、標高差は630mある。山仲間アルプの基準では、グレードC-。5月の生藤山や6月の三頭山よりも少しハードだ。しかし、子どもたちはみんな元気に登っていた。



芽吹きの中腹と西武電車

前日の、天気予報は気象庁、ウエザーニューズ、日本気象協会ですべての予報が違っている。特に秩父地方は、日本気象協会では、曇りのち晴れの予報。他のところも、昼前後に雨が降るが、激しい雨にはならない模様。低気圧が北側を通るため、日中は比較的天気安定する温暖前線と寒冷前線の間に入るために、それほど雨は降らないはずだと自己判断もする。最後まで悩むが、予定通り実施することとした。



菜の花の咲く山里

八千代市から参加する親子は、京成電車の中で全員合流する。池袋駅で、スタッフも合流し、全員そろって西武線に乗る。最近では現地集合が多いので、今では珍しい光景となっている。

芦ヶ久保駅に降りると、ちらちら冷たいもの

も感じるがまだ降ってはいない。KMさんのリードでラジオ体操を行う。そして1班から出発する。最初は車道だが、いきなりの急登となる。山腹には桜が咲き、芽吹きの木々や新緑の木が入り交じり、春らしいまさに「山笑う」光景が広がる。その下を西武線の電車が走っているのが分かる。



広い登山道を登る

いくつも分岐のある急な車道を登り、途中から山道へと入っていく。武甲山が痛々しい姿でたたずんでいる。日向山分岐を過ぎると今日一番の急坂が待っていた。子どもたちはがんばって登ってくる。運動不足だという親御さんも、顔を真っ赤にして登ってくる。みんなとてもがんばっている。

急坂と平坦なところが交互に出てくる。登山が初めての子どもたちもがんばっている。林道の手前にはカタクリが咲いていた。Oさんが見つけてくれなかったら見逃していた。春の妖精に会えてとてもラッキーだった。



丸山山頂にて

埼玉県民の森を左手に見て進んでいく。トイレのあるコルを過ぎると、山頂への最後の登

りとなる。ミツバツツジも咲いていた。展望台が見えると子どもたちも元気が出てぐんぐん登っていく。

山頂には六つ星山の会のみなさんがいた。久しぶりの再会を喜び、みなさんの集合写真撮影のお手伝いをしてお別れとなる。みなさんは我々が来た道を下っていった。



展望台から見た両神山

雨がぱらぱら降っていたので展望台の下で昼食タイムとする。食後は展望台に上がって展望を楽しむ。武甲山や両神山が見えている。反対側には関東平野が広がり、近くには堂平山、笠山、大霧山の比企三山が間近に見える。

山頂標識のところで集合写真を撮り、出発しようとしたら、すっかり青空が広がり、展望がいっそう良くなった。もう一度展望台に上がろうということになり、展望を楽しむ。そこでも集合写真を撮ってから下山にかかる。



元気いっぱい駆け下りる

2班に前に来てもらったら。小学生たちは大喜び。危険のないところで、私が駆け下りると、みんな駆け下りてくる。子どもたちの喜び姿はとにかく楽しい。

途中で樹林が切れて草原に出る。ここはパラグライダーの発着場だ。展望もすばらしく、自然に休憩となる。周囲の山肌の桜や芽吹きの木々が春らしい雰囲気醸し出してくれる。まさに「山笑う」だ。

さらにぐんぐん下って大野峠に到着。以前、先頭を追い越して下ってしまう子をロープでつないで下ったら、他の子もつないでほしいということになり、いつの間にか汽車ぽっぽごっこになっていたことを思い出す。そのときのリーダー格の子は、今は中学2年生。子ども山登り教室の卒業生だ。

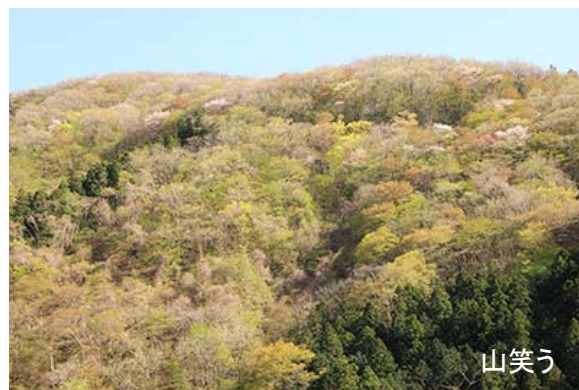


春の日差しを受けて山道を歩く

沢筋のコースは、切れた箇所もあるので要注意。子どもたちは全員しっかりとクリア。沢を渡る2本の丸太橋も、みんな順調に通過した。

尾根を何度か回り込むように下って行くとバイクの音が聞こえてきた。車道に出て、芦ヶ久保に向かう。次々に現れる「山笑う」風景が単調な車道も楽しいものにしてくれる。キセキレイが電線に止まって私たちを見送ってくれていた。

記：網干



山笑う

コースタイム

芦ヶ久保(9:25)…丸山(12:15-13:15)…大

野峠(13:55)…芦ヶ久保(15:40)

★生藤山(5月22日)

参加者 子ども4名

スタッフ7名

親御さん5名

別働隊 会員(障害者1名、健常者2名)

「親子で目指そう富士登山」の第2回目は、生藤山だ。前日の運動会でけがをしたり、疲れたり、体調を崩したりで4人の子どもたちが当日キャンセルとなった。そのため、子どもたちは4人、親御さんは5人、スタッフ7人、別働隊3人という構成で登ることとなった。

すばらしい天気恵まれたが、逆に高温が心配された。京王線の車中からは、残雪を抱いた富士山がよく見えた。みんなの気持ちが高鳴る。

和田でバスを降り、体操をして出発。車道から広い登山道へと入っていく。ヘビイチゴやクサイチゴが実をつけている。子どもたちは味見をしている。クサイチゴは甘かったようだ。登山道脇の葉にはきれいな模様の蛾が静かに止まっていた。



オオルリ

広い登山道から山道へと登っていく。近くでオオルリが大きな声でさえずっている。視力の良いKさん親子やO君が見つけてくれた。ピントが合うかどうか運任せのカメラでバシバシ写真を撮る。途中でビデオでも撮影する。できれば手が4本に顔がもう一つほしいものだ。



新緑の中を登る

急坂を登って山の神に到着。木陰で風が通るここはとても涼しい。気持ちよい場所だ。Iさんが八街から、今年最初のスイカを持ってきてくださった。冷たくてとてもおいしい。いつもIさんには感謝です。



歩きやすい登山道を行く

山の神からさらに登っていく。登山道の脇にはヤマツツジが咲いている。少し登ると尾根は平坦になり、とても歩きやすくなる。1班のO君もK君も元気に歩いている。

進行方向から歩いてきたおばさんたちに聞いたら連行山にはベンチがあるとのこと。計画

通り連行山で昼食タイムとする。ここでもIさんは子どもたちに木で作った車をプレゼントしていた。I君はIさんが持ってきたおもしろい眼鏡をつけたので写真を撮ってあげる。その後、I君はカメラを持って周囲の撮影タイム。独特の視点で撮った写真が楽しんだ。



おもしろい眼鏡をするM君と見つめるO君

連行山から茅丸を巻いて進み、生藤山への最後の登りにかかる。ここは少し岩のある急坂だ。子どもたちは怖がることもなくぐんぐん登ってくる。頼もしい限りだ。



楽しそうに歩くA君

山頂に到着すると、富士山の方角だけが切り払われている。そこで明るい空に目を慣らしていると、うっすらと富士山が見えてくる。あまり広い山頂ではないが、みんなで集合写真を撮る。狭い山頂より、広くて展望の良い三国山でゆっくりすることにする。

三国山からは、扇山や百蔵山、権現山が近くに見え、その遠くには大菩薩の山々が見えていた。ここからは甘草水、佐野川峠を経て、鎌沢へと下って行く。鎌沢の休憩舎からは陣馬山が正面に見えていた。



ヤマツツジ咲く登山道を歩く

昨年に続いて参加しているK君はいつも元気だが、今年はじめて参加した3人の子どもたちも、メンバーの雰囲気慣れてきて、楽しそうに歩いていた。泊まりとなる4回目の硫黄岳の頃には「みんな仲間」になっていることだろう。



丸山山頂にて

コースタイム

和田(9:55)…山の神(11:30-11:45)…連行山(12:20-12:55)…生藤山(13:25-13:35)…三国山(13:40-13:55)…佐野川峠(14:35)…鎌沢入口(15:35)

「親子で目指そう富士登山」感想文（第1回丸山）提出順

楽しかった。(おしゃべり) きつかった。(上り) にもつが重い。
みんなとひさしぶりに会ったのに、つい最近会ったみたいだった。

A.T君

KDくん、Tくん、中学生の男の子、みんなと山にいけてよかったです。朝が早かったので眠かったです。でもTくんと久しぶりに会って電車で仲良くできてよかったです。丸山に行く途中にKDくんとAくんと班が同じで最初はおしゃべりしてて遅くなってしまったけど、山頂についたらAくんとご飯を食べました。山で食べるご飯はとてもおいしかったです。そのあと下山しました。そのときはAくん、KDくん、中学生のお兄さんは早く歩きました。芦ヶ久保駅には16:40に着きました。がんばったから、コーラを買ってもらいました。またAさんと山にいきたいです。

Y.K君

今回はとても疲れたけど、楽しい一日に出来ました。朝は5時半出発ととても早くて寝むかったけど、しっかり駅まで行けました。日暮里から先はどこも行ったことがないのでワクワクしました。芦ヶ久保を降りたらすぐ坂で意外にきつかったけど楽しかったです。

歩きはじめて30分ほどたつと山らしくなってきました。いろいろな自然があってすごくよく歩けたけど途中から上り坂も増え木ばっかりの景色にあきてしまいました。頂上についた時はとてもうれしくその時見た景色も覚えています。

靴が壊れてしまって恥ずかしかったけどいい思い出になったのでよかったです。帰りはスムーズにかえたのでよかったです。今回はみんなが協力して最高のものにできたので次回も頑張っていきたいです。

C.N君

久しぶりの登山だ。朝5時に起きて、約5時50分の電車にのるのは眠かったのが嫌だった。久しぶりの山登りは、足が少しなまっていて前よりきつかった。最初民家の側にいた犬をつないだ所から（カラカラ）と音がして「何だ？」と思った。小さな棒を投げて、犬があそんでくれてうれしかった。山をのぼっている途中、急な登り坂に強風がきて登りづらかった。頂上に着いたら昼めしを食べた。カップラーメンを持って来たが、水筒の中のお湯がさめてぬるくなっていてめんがのびたベビースター（ラーメンのおかし）みたいでショックだった。

K.K君

私は今日丸山に行って、やまのぼりをしました。それでともだちにあいました。いっしょに丸山をのぼってたのしかったです。おひるは私たちはきつねうどんです。ともだちはからあげとポテトを食べていました。わたしも食べてみたいと思いました。さいしょははずかしかったけどおともだちのおかあさんにいいなっていました。また丸山にのぼりたいと思いました。お兄ちゃんもおばあちゃんもともだちもちゃんとのぼっていたのがすごくよかったと思いました。お母さん、お父さんといっしょに行きたいです。

おとうとが大きくなったらおとうといっしょに行きたいです。Sちゃんともいっしょに行きたいね。Aさんも丸山たのしかったですか？私はもっと大きくなったら、やまのひとになりたいです。Sちゃんはやまの人でわたしも大人になったらやまの人で、どこかにともだちと、とおいところへとまりにいきたいです。ともだちはRちゃんです。Rちゃんは大人になったらどんなことがしたいかきいてみます。

K.Kさん

生まれて初めての登山で、どんな感じなのかな、楽しそうだなと思ったけど、さがったり、あがったりして、きつかったです。地上から山の高さがたいしたことなくても、実際の道のりは、とても長くてびっくりしました。この登山で、いっしょに山を登る新しい仲間もできたとし、登り終わって頂上の景色もきれいでした。一番最後の富士登山にむけて、どんどん高い山になれていきたいです。これからもよろしくおねがいします。 A.O君

《親御さんと一緒に》

天候にも恵まれ、花や鳥、自然にふれる事が出来、初めての親子登山を楽しむことが出来ました。スタッフの方々も親切で安心して行動が出来ました。ただ日頃の運動不足もありますが、もう少しゆっくりと歩けたらと感じました。下山にも少し休憩があると良かったと思いました。8月の富士山までに体力をつけたいと思います。来月もよろしくお願い致します。

A.Uさん、M.Uさん

山 行 報 告

★仏果山(3月12日)

参加者 会員(障害者1名、健常者5名)
会員外(健常者1名)

今日は、曇り時々晴れの予報。気温は低いがまずまずの天気と思って本厚木駅からバスに乗る。ところが、宮ヶ瀬ダムに近づくと、山の上の方が雪化粧している。今日は、軽アイゼンなどを準備してこなかったもので、途中で引き返すことになるかもしれないと、仏果山登山口のバス停を出発する。



雪交じりの登山道を登る

山腹をトラバースした後、ジグザグの道とな

る。まだ雪はない。杉林が続く、花粉症の人にはつらいところ。私も今日はマスクと花粉予防の眼鏡をしてきたが、マスクをしていると眼鏡が曇るので、眼鏡をはずす。

さらに上がると、雪化粧した木々の山腹が見えてきた。近くの木々も雪の花を咲かせてとてもきれいだ。足元にも少し雪が出てきた。上から降りてきた人に雪の状況を聞くと、登山道にはほとんど雪がないので問題ないとの返事。ほっとして登っていく。



エナガ

雪が次第に増えてきたが、登山道にはほとんど雪がない。山腹をトラバースしていくと宮ヶ瀬越に到着する。この付近はかなり雪が多い。

3cm 位の積雪だろうか？ 天気はあまりよくないが、登山者は思ったより多い。30人ほどのパーティーもいた。雪の付いた木々の向こうには、雪のないふもとが見える。このコントラストが面白い。

尾根に沿って歩いていくと仏果山の山頂が見える。山頂には展望台があるので、そこが山頂であることがすぐに分かる。山頂直下の急坂が少し心配だったが、雪が付いていなくてよかった。お父さんの手引きで、Mさんもがんばって登ってくる。



山頂には、数パーティー10人近くいたのだろうか？ 我々もベンチの一つに陣取って昼食タイムとする。暖かなカップラーメンがおいしい。昼食後は展望台に上がって景色を楽しむ。丹沢方面は曇っていて見えないが、周囲の雪景色がすばらしい。宮ヶ瀬湖も見える。近くの高取山や経ヶ岳も見える。都心方面もうっすらと見えていた。

山頂からは半原方面に下る。くだりが苦手な

Mさんも、ダブルストックで慎重に下っている。お父さんが段差の大きいところでは手を引いてサポートしている。親子の絆がすばらしい。

下るにつれて雪は少なくなる。林道を横切り、送電線鉄塔のある展望のよいところを通過する。濡れて滑りやすいところもあるので、気をつけて下る。しかし、このコースは危険な箇所がないので、安心して下れる。



車道が見えてきて、最後の階段を下ると車道に出る。愛川ふれあいの村センター前バス停に行くつもりだったが、途中で上に上がるのを忘れてバス停のある道路の下を通過して、たどり着いたところが燃糸組合前バス停だった。寒さが骨身にしみ始めるころバスが到着した。

記：網干

コースタイム

仏果山登山口(10:35)…宮ヶ瀬越(11:50-12:00)…仏果山(12:35-13:10)…燃糸組合前(15:35)

★巢雲山(4月3日)

参加者 会員(障害者2名、健常者4名)
会員外(健常者2名)

前日の天気予報は曇りで、降水確率20%だったが、家を出るとちらちら雨が降っている。宇佐美駅で電車を下りるが、やはり雨が降って

いた。参加予定だったSKさんから今日はキャンセルするとのメールもあった。強い雨ではないが、雨具をつけて出発する。

山は今回が2度目の参加となるYさんが今回が3回目の参加となる視覚障害者のSさんをサポートして歩いてくれる。車道を歩いているうちに雨も上がり、暑くなってくる。後ろを歩くメンバーは何度か衣類調整で休憩してい

るようだ。



広い山道を行く

今回が初参加のKさんもSさんのサポートをしてくれている。心強い限りだ。

登っていくと、左側の樹林が切れたところから雲海に浮かぶ山が見える。標高500m程度の低山でこんな雲海が見られるとは思ひもなかった。キャンセルしたSKさんが知ったらきっと悔しがらるだろうなと思いながら、にたにたしてしまう。うーん、なんという性格をとるんじゃ。



雲海の上に浮かぶ山

さらに登ると、樹木が刈り払われて展望のよいところに出る。そこを過ぎたところでもやく山道になっていく。地図にある道から離れて大丸山に到着する。ここは地図では道がないようになっているが、実際にはしっかりした道があり、広い道を歩いていると自然にこちらに来てしまうようだ。

伊豆スカイラインを右手に見て、下っていく。スカイラインのすぐ横に、地図にある道が合流していた。どこかで、こちらに来る道を見落としたのだろう。



巣雲山山頂にて

何度か小さなアップダウンを繰り返して、山頂への最後の登りとなる。登っていくと広い草原に出る。ここが山頂の一角だった。山頂は広く展望もすばらしいが、さらに展望台にあがると、さすがにすばらしい展望だ。今日は雲に隠れて見えないが、富士山や箱根方面、沼津アルプス方面、天城山方面とすばらしい展望が広がるのだろう。それでも今日は、高い山は見えなかったが海も見え、初島も見えた。なんといっても開放感がすばらしい。

下山は来た道を少しだけ戻り、右手に下っていく。スカイラインの横に出て、そこから沢に沿って下っていく。沢が合流してきたところでちょっとした読図講習。現在地を当ててもらおう。KSさんはさすがは毎週山に登っているだけあって、しっかりと当てることができた。



春らしい山腹と相模灘

今日は、ウグイス、ホオジロ、ミソサザイ、ヤマガラ、ヒガラ、イカル、コジュケイ、ガビチョウなどのさえずりを聞くことができた。もう少しすると夏鳥もわたってくるだろう。

腐りかけた丸太の橋をいくつか渡り、コン

クリートの道に出る。ここから、桜が咲き、芽吹きの木々が多い里山の風景を楽しみながら、車道を下っていく。

最後にイソヒヨドリの声も楽しむことができた。帰りの長い電車の旅も、話をしているうちにあっという間に上野に着いてしまった。

記：網干

《参加者の感想》

今期初の山は伊豆の巢雲山にいつてきました。あまり知れ渡っていない山かもしれない。宇佐美の駅も静かな駅で、山への道はほとんど舗装道路。山の中に入るとやっぱりほっとする。

緩やかな坂をゆっくり登る。緩やかなんだけど、だんだん蒸し蒸ししてくる。汗が出てくる。天気もだんだんよくなってきて、一枚一枚脱いでいく感じ。

★奥久慈男体山(4月9日)

参加者 会員(障害者2名、健常者7名)

久しぶりに快晴に恵まれる予定だったが、西金駅に降り立つと花曇りだった。空の青さは、何よりも気持ちが良いが、直射日光が当たると美しい花の色が飛び、写真に写すと白だけのものになってしまう。曇り空は、花の美しい色をそのまま写真に再現してくれる。今日は花曇りの優しい光を楽しもう。



登山口から男体山を望む

今日は、昨年水戸葵山岳会で34年ぶりに再

巢雲山の山頂はわたしたちだけ。桜も終わっていた。名前と違って広々とした草原のようだった。子供達がいたら転がって、遊ぶことだろう。大好きな富士山は雲の中に在った。どれくらい大きく見えるのだろう。天城山脈がみえる。縦走したのは何年前だろうか。

期待していた宇佐美のみかんの路上販売はなくて、残念だった。木になっているみかんをみて、食べたいなと横目でみながら下山。笑いながら、鼻歌歌いながら、静かな山を満喫できた。今年の山はどんな姿を見せてくれるだろう。

記：S.Kさん

コースタイム

宇佐美駅(9:55)…大丸山(12:15)…巢雲山(13:05-13:50)…宇佐美駅(16:20)

会したMさんが参加してくださった。電車の中で、すでにみんなとの話が盛り上がり、すっかり溶け込んでもらえたようだ。

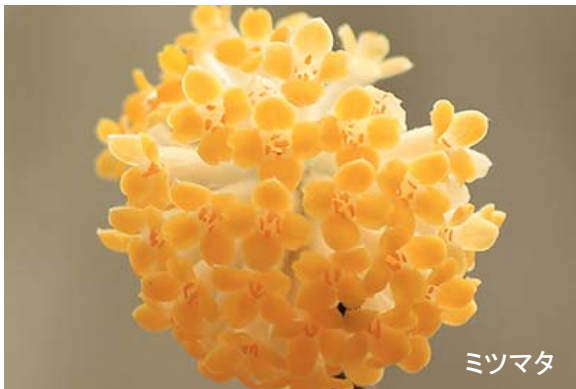
西金駅から1台のタクシーで2往復してもらう。袋田の駅から来てくれたタクシーに感謝です。

タクシーを降りると、目の前に目指す奥久慈男体山が見える。切り立った岩山は、やはり魅力的だ。山腹の芽吹きの木々や桜が春の雰囲気強く感じさせてくれる。

一般コースを上っていく。スミレがいくつか咲き、タチツボスミレは無数に咲いている。ムラサキケマンやカキドオシ、ヨゴレネコノメも咲き、ニリンソウが次第に増えてくる。かご脱け鳥のガビチョウが賑やかにさえずり、ヤマガラやメジロもさえずっている。ウグイスももちろん歌っている。大円地越が近づくとアカゲラだろうか、ドラミングが近くで聞こえた。「焼酎一杯グイー」のセンダイムシクイもこの春初めて聞いた。麓のツバメもこの春の初認だったが、いよいよ夏鳥の季節到来だ。



大円地越で昼食とする。ミツマタが咲き、ヤマエングサクも咲いている。ここからは、いよいよ山頂への最後の登りとなる。一部に岩場や切れたところがあるので注意を要する。足下には、エイザンスミレやフデリンドウも咲いている。



左側には切れ落ちた岸壁がある。その縁を慎重に登る。岩場には、しっかり足場が切っている。登るにつれて樹木が少なくなり、展望も良くなる。曇り空のため、遠くの山はかすんで見えない。筑波山も何となく、あれかな？という程度でしっかりは見えなかった。



数人のパーティーが休憩している山頂に到着。張り出した岩場の上には祠が奉ってある。シジミチョウやぼろぼろに羽を痛めたヒオドシチョウも舞っている。Mさんから遠くに見える里見牧場を教えていただく。高原に風力発電の風車が回っていた。



山頂からは、北西側を下る。少し行くと東屋があり、そこから健脚コースが下っている。昨年、Kさんはここを登ったらしい。

袋田の滝につながる縦走路から離れて、男体神社への下りにかかる。ここは、かなりの急坂で注意が必要だ。M君をサポートしながら下る。足の置き場などを指示するが、M君は確実に歩き方がうまくなっているようだ。ロープも使って降りてくる。



春らしいほんわかした山腹を楽しみながら、男体神社に降りてくる。ここで、タクシーを呼ぼうということになる。30分ほど下った滝倉地区集会所まで来てもらうことにする。

少し下ると、菜の花の咲く山里に飛び出す。なんとのだかな風景なんだろう。心がほのぼの

とする。振り返ると、登って来た奥久慈男体山が高くそびえている。春の優しい風を頬に受けながら、檜の花粉をたっぷり吸いつつ、歩きながらタクシー待った。 記：網干



《参加者の感想》

こんなに春を感じての山行は、久しぶりです。足元から、春、春、春…

花も、鳥も、木々も、空気も、生き生きとした、春らしい輝きを放っていました。

その中を歩く幸せ…参加して良かったです。写真のアップで、余韻にひたりたいと思っています。

息子も「楽しかった♪」と大満足していました。駅でのみ干したジュースがとても美味しかったそうです。身体全体で、感じた充実感。最高の一日でした。迎えてくれた山にも、感謝します。 記：F.Iさん

今日は10年も前にいった奥久慈男体山へ。以前いったときは紅葉真っ盛りの頃だった。

電車の旅は時間をみれば長く感じたが、時間

のとおり着く。奥深くまでタクシーで行くので今日は気分がゆったり。

小さな新芽が細かく出ていて、春そのもの。二輪草がお目見え。左から右、どこも二輪草が向かえてくれる。登山口からすでに男体山は見えている。岩が見えるとうれしくなるのはなぜだろう。イワウチワまで登場。二輪草といいイワウチワといい、白い花が多い。黄色のヤマブキがその中でひときわ目立つ。山頂からの山桜もところどころに咲いている。

今日はリーダーの山の先輩、Mさんがご一緒して下さるとのこと。アイガー東山稜を登ったと聞いている。わたしの世界とはまったく別な山名。アイガー。名前がかっこいい。

わたしの勝手なイメージとは違って、なにか母性あふれる温かい人。笑顔が素敵だ。厳しいアイガーの氷の世界が交差したが、緑豊かな山のMさんしか知らない私。もっともっといろいろな話がしたかった。またいつかお会いしたい。

Mさんの山に行ける体だから、山にいけるのよ、の言葉が頭に残ってます。山はどんなことを言われようと山はいい。1日を満喫させていただきました。 記：S.Kさん

コースタイム

大円地登山口(11:10)…大円地越(12:15-13:00)…奥久慈男体山(13:35-13:55)…男体神社(15:00-15:10)…滝倉地区集会所(15:40)…車道途中(16:10)

★倉岳山(4月24日)

参加者 会員(障害者3名、健常者9名)

雨は明け方まで歩き始める頃には止んでいる予報だった。結果は、山頂から下山を始め

た頃、少し降ってきたが、それ以外は降られずに済んだ。

梁川駅から歩き始める。梁川大橋からは、新緑の木々に覆われた桂川が見える。ウグイスがさえずり、オオルリも近くでさえずっている。唐栗橋から登山道に入る。足下にはジューニヒトエが咲いている。少し行くとナルコユリやヒ

トリシズカも咲いている。ヨゴレネコノメやミミガタテンナンショウ、マムシグサも咲いている。



沢を渡る

賑やかに話が弾んでいた後ろを歩く人たちには聞こえなかったと思うが、ツツドリの声も聞こえ、ヤブサメも鳴いていた。たぶん聞いたのは私だけだったと思うが、遠くでアオバトの声も聞こえた。ミソサザイやヒガウの声もよく聞こえていた。



ヒトリシズカ

立野峠への急な登りにかかると、周囲は霧に包まれるようになってきた。立野峠で少し休憩し、稜線を上って倉岳山山頂を目指す。急な登りを終え、少し下る。そして山頂への最後の登りにかかる。ここは非常に急で、しかも滑りやすい。ここを下りに使いたくなかったので、今回は梁川から登ることにした。しかし、急坂はそれほど長くなかった。程なく山頂に到着。Yさんは、山頂に着くなり「とても楽しい！」という。こういう急な登りが楽しいらしい。やっぱり若さかな？

倉岳山は、秀麗富嶽十二景の九番山頂に選ば

れている展望の良い山だが、今日はどこを見ても真っ白で全く景色が見えない。「山頂に着くと、ひときわ高く富士山が聳えていた」ということにしよう。



倉岳山山頂にて

昼食休憩中に蜘蛛の糸に付いた水滴の写真を撮る。雄大な景色が見えなくても、雨上がりや霧の日は水の芸術が見られる。山は好天でない日に登るのも楽しいものだ。



蜘蛛の糸に付いた水滴

山頂で集合写真を撮り、下り始めると雨が降り始めた。強い雨ではないが、寒かったこともあり、雨具をつけることにする。



苔むした岩を縫って流れる

尾根を下って穴路峠に到着。ここから山腹を

トラバース気味に下って行く。片側が切れていて要注意の箇所もある。慎重に下って行く。

登山道は次第に、オシノ沢沿いに下るようになる。苔むした岩が無数にある。新緑の木々と苔の色が、緑一色の世界を作り出しているようだ。石仏を過ぎると道は歩きやすくなる。さらに行くと、貯水池に出る。対岸の新緑の林と池の緑がとてもきれいだ。

貯水池から舗装道路を歩いて鳥沢駅を目指す

★両神山(5月8日)

参加者 会員(障害者1名、健常者6名)
会員外(健常者1名)

今日は奥秩父の名山、両神山に登る。地図に登山道は記されていないが、白井差から山頂に登るコースを行くことにした。日帰りである安全に往復するにはここが一番だ。ただし、事前に登山口にある山中さん宅に電話で、入山を予約し、入山料を払って登ることになる。それでも、この登山道が使えることはありがたい。



緑に包まれた山道を登る

タクシーで山中さん宅まで入り、登山道に関する注意を聞いて出発する。しばらく林道を歩き、登山道へと入っていく。しばらく行くと大笹沢にかかる昇竜の滝が現れる。きれいに流れ落ちている滝だ。

沢が二手に分かれる大又を過ぎ、少し行くとやまびこ橋だ。ここで小休止する。とにかく新

す。中央線の向こう側には扇山と百蔵山が見える。駅に近づいて振り返ると登ってきた倉岳山も見えていた。

記：網干

コースタイム

梁川(9:35)…唐栗橋(9:50-10:00)…立野峠(11:35-11:50)…倉岳山(12:30-13:05)…穴路峠(13:35)…鳥沢(15:55)

緑が美しい。ミツバツツジの花も見られるようになってきた。足下にはニリンソウやクワガタソウも咲いている。



アミガサタケ

さらに、ノゾキ橋を過ぎ、オオドリ河原で大きな岩を回り込む。上を見上げると、新緑の木々がトンネルのように覆い被さっている。トラバース気味に登り、尾根状のところに出ると、そこから水晶坂が始まる。ロープも張られている。



新緑のトンネル

ジグザグの登りをがんばると、ブナ平に到着。

ここで昼食タイムとする。倒木の上に、ハルゼミがいた。死んでいると思っていたが、しばらくすると動き出した。成虫になる時期が早すぎたのか、片側の羽は伸びきれていない。まだ暖かさが足りないのではないと思うが、ほとんど動かず、飛ぶこともできない。



山頂直下の鎖場

ブナ平を過ぎるとすぐに夢見平の標識がある。ここから稜線への最後の登りとなる。足下には、コガネネコノメやフデリンドウが咲いている。バイケイソウも群落を作っている。野鳥たちは、オオルリやツツドリ、ミソサザイ、センダイムシクイ、ジュウイチの歌声が聞こえた。



両神山山頂にて

急坂を終えトラバースしていくと、多くの人が見える。そこが稜線だった。ここからいよいよアカヤシオの群落が見られる。尾根の右左、そして登山道にもたくさん咲いている。アカヤシオのトンネルをくぐるように痩せ尾根を行くと、山頂直下の鎖場に到着する。ここを難なく登ると、そこが山頂だった。

山頂からはすばらしい展望が広がる。武甲山から雲取山への稜線、そして飛龍山、唐松尾山、笠取山、雁坂嶺、甲武信ヶ岳、三宝山と続く奥秩父主脈の山々、さらに天狗山、御座山があり、その奥には残雪の残る八ヶ岳連峰が見える。北北西方向にはうっすらと浅間山も見えていた。ひときわ高い富士山は、残念ながら見えていなかった。



山頂のアカヤシオと西上州方面

山頂付近もアカヤシオがすばらしい。名残惜しいが、大勢の人たちが登ってくる山頂に長居はできない。鎖場を慎重に下り、登りと同様、アカヤシオのトンネルをくぐって行く。

稜線を外れて下りにかかる。ルリビタキの雌が姿を見せてくれた。下りはさすがに早く、順調に下って行く。山中さん宅でのどを潤すものはありますかと聞いたら、自宅に買い置きしているものを持ってきてくださった。とてもありがたい。

予約していたタクシーが早めに来てくれた。車中ではいつの間にか寝てしまっていた。眠りについたら、運んでもらえるのは、本当にありがたいことだ。

記：網干

コースタイム

白井差(10:20)…ノゾキ橋(11:20)…ブナ平(12:05-12:30)…両神山(13:30-14:00)…ブナ平(14:40-14:50)…白井差(16:00)

★米山・刈羽黒姫山(5月14日～15日)

参加者 会員(障害者1名、健常者7名)

☆5月14日

今回は越後平野に聳える名峰米山と、米山の近くにある刈羽黒姫山を計画した。1日目は刈羽黒姫山を目指す。

十日町駅からジャンボタクシーで黒姫キャンプ場へ。そこから往復する。駐車場には早速、タチツボスミレやオオバクスミレ、ヒロハテンナンショウなどが咲いている。ワラビやゼンマイもある。

登山道にはオオイワカガミが多い。少し登ると山間部の奥まで入り込んで田畑がある。人里離れた山奥に小集落を作り農作業を行っている。祖先は落ち武者だったのだろうか？

山から下りてきたグループが、上は霧の中で何も見えなかったという。ようやく霧が晴れてきたので「良かったね」と言って下って行った。

登っていくと、距が非常に長いナガハシスミレやスミレサイシンの花が見られるようになる。周囲は美しい新緑のブナ林が広がっている。オオルリやキビタキ、センダイムシクイ、ヤブサメ、ツツドリ、ミソサザイなどの歌声が聞こえる。



力強いブナ

山頂直下にある鵜川神社を通過し、さらにがんばって山頂に到着。雲は少なくなり、展望が利くようになっていたが、空気中の水蒸気が多

く遠くまでは見えなかった。それにブヨなどの虫が多い。早速2カ所ほど刺されてしまった。



刈羽黒姫山山頂にて

山頂で集合写真を撮って下山にかかる。登ってくる途中で見逃したヒメシャガの花を教えてもらいながら下った。運良く枯れ木の梢でさえずるオオルリを見つけることができた。



オオルリ

黒姫キャンプ場に降りてきて待っていると、少し早めにタクシーが来てくれた。十日町駅まで戻り、そこからほくほく線で犀潟駅まで行き、さらに信越本線で上下浜まで行く。そこから歩いて今日の宿へ。



ヒメシャガ

宿に着いてから、海を見に行く。砂浜の浜辺では釣りをしている人たちがいた。佐渡島は見えなかったが、直江津のコンビナートは見えていた。宿への帰り道で、ハマナスの花も見られた。



☆5月15日

今日は本命の米山だ。宿までジャンボタクシーで迎えに来てもらい、水野林道登山口まで行ってもらおう。宿を出るとすぐに、米山の端正な姿が望まれる。三角錐の「これぞ山」という姿をした山だ。麓には水田が広がり、心安らく風景が広がっている。

水野林道終点の登山口も非常に展望の良い場所だった。妙高山方面もうっすらと見えていたのだが、山名までははっきり分からなかった。麓には頸城平野が広がっている。日本海もよく見えている。今日は、新潟の最高気温は26℃の予報。かなり暑くなりそうだ。半袖で歩きはじめる。



一面のブナ林だった刈羽黒姫山と少し雰囲気が違うようだ。しかし、登るにつれてブナが

増えてくる。オオイワカガミはどこまで行っても群落が広がっている。ギフチョウも舞っている。ミツバツツジも咲いている。しかし、急な階段が次々に現れる。美しい緑を楽しみながらも、がんばって登らなければならない。

下牧方面への分岐には、白花のオオイワカガミも咲いていた。ここから少し行くと避難小屋がある。元気なおじいさんが降りてきた。

鎖の手すりがつけられた岩場の痩せ尾根を過ぎ、山頂に向かってぐいぐい登っていく。今日も相変わらずブヨが多い。Kさんから虫除けスプレーを貸してもらおう。しつこい虫たちはスプレーもなんのそので、すぐに襲いかかってくる。しかし、負けてはいられない。ひたすら登るだけだ。



ようやく、山頂に到着する。山頂は虫の大群で、恐ろしい状態になっている。避難小屋に入ると虫は少ないので、中で昼食タイムとすることにする。避難小屋にある登山者名簿に名前を書く。お昼を食べ始めた頃、新潟アイユースのSさんが山頂に到着した。約2年ぶりの再会を喜び合う。すると、なんとSさんはトマトとイチゴのパックを持ってきてくださった。こちらからは何も準備していなかったため、恐縮しつつも、最高においしいごちそうをいただく。

虫を無視して山頂でSさんと一緒に記念写真を撮る。そして日本海や柏崎方面、米山駅方面、頸城平野方面、昨日登った刈羽黒姫山方面の写真を撮り、Sさんと一緒に大平口コースを

下山する。



米山山頂にて

Sさんは米山には何十回も登っている。米山の主と言っても良いのではないかな？ 植物や山菜のことも詳しい。後ろのグループはいろいろなことを教えてもらいながら下っていたようだ。



米山山頂から見た柏崎方面

今年は2週間ほど季節が早く進んでいるらしい。ショウジョウバカマがたくさんあったが、すでに花期は終わっていた。しかし、ブナの新緑はすばらしい。水野林道からのコースも急坂が続いていたが、こちらも急坂の連続だ。痩せ尾根やはしごもある。M君の様子を見ながら下っていく。M君は本当に歩き方がしっかりしてきた。

どうしてそんな名前が付いたのか分からないが、ロマンスヒールを過ぎ、二ノ字に着く。振り返ると、登ってきた米山の山頂がよく見える。

さらにぐんぐん下って大平登山口に到着する。そして、駐車場でSさんとお別れとなる。Sさんは車に乗って颯爽と帰って行った。私た

ちは、舗装道路の長い下りが待っている。それでも、ハルジオンに止まるシロチョウの仲間や、芦原でさえずるオオヨシキリを楽しみながら米山駅を目指す。



水田と日本海の間を走る信越本線

米山駅からは、日本海がよく見える。海拔は数メートル。993mの米山山頂から山頂とほぼ同じ標高差を降りてきた。駅のホームから登ってきた米山が、ひときわ高く聳えているのが見えた。

記：網干



米山駅から見た米山

《参加者の感想》

活力を感じる2座でした。そびえる木々も足下の草花も、虫も鳥も動物も(熊の痕を見ました！)生き活きとしていました。

日本海を見下ろす米山、愛されるのが分かります。見る聞く感じるのが忙しく…感動を頂きすぎるとこんな風になくなるのかと…山の懷に抱かれたようで、大満足です。Sさんのガイドにも感謝します m(_ _)m

息子は米山が良かったそうです。暑い中、急勾配が続きましたが、楽しげに、登山道を進んでいたのは、山の持つ「気」が、心地よかった

のかもしれませんが。良さを五感で受け止めたようでした。

暑さも山では文句までにはならないのに…下山後の駅までの林道は…さすがに長かったあ…(*_*)

写真のアップが楽しみです。改めてゆっくり見たいものが沢山あります。 記：F.Iさん

★大山(5月28日)

参加者 会員(障害者2名、健常者4名)

今日は丹沢の名峰、大山だ。丹沢にはヒルが非常に多いということで、夏を中心とした暖かい季節には行かないことにしていたが、今回は久しぶりに実施した。

ヒル対策に塩を持って行こうと思いながら忘れてしまったが、Sさんがしっかりと準備してきてくださった。とてもありがたい。靴にかけるスプレーまで作ってきてくださった。

ヒルがいないか足下を注意しながら登山道を登っていく。朝、秦野駅にいた多くの人たちは、先に登っていったようで、登山者は比較的少ない。咲いている花は少ないが、ヤマツツジやウツギの仲間が緑の中に彩りを添えている。イカルやヒガラ、ヤマガラの声もよく聞こえている。



以前はなかったように思うが、登山道には一

コースタイム

5/14 黒姫キャンプ場(9:55)…刈羽黒姫山(11:20-12:10)…黒姫キャンプ場(13:00)

5/15 水野林道登山口(8:50)…しらば避難小屋(9:55)…米山(10:35-11:40)…ロマンスヒール(13:05)…大平登山口(14:00)…米山駅(15:15)

力所、新しい鎖をつけた場所があった。そこを越え、イタツミ尾根を登っていく。展望が開けると、富士山が見えた。その右手には、丹沢の山々がよく見える。手前にある三ノ塔、その右手奥に塔ノ岳、さらに右には丹沢山があり、丹沢三ッ峰へと続いている。

登山道は表参道と合流し、一気に登山者が増える。木の階段を登っていくと、山頂に到着する。さすがに大勢の人であふれかえっている。ベンチの一角を貸してもらい、お昼を食べる。リンゴやアメリカンチェリーなどいろんなものをいただく。持ってきていただいた方に感謝です。



若いカップルが、テーブルのないところで昼食を食べようとしていたので、私たちのベンチのあいている所を使って良いよと誘ってあげる。彼女が作ってきたニンニクの漬け物入りのおにぎりを、とてもおいしいと彼が食べている。ほほえましい光景に、こちらの仲間とも話が弾む。



塔ノ岳と丹沢山方面

山頂標識のところで集合写真を撮って下山にかかる。富士山や丹沢の眺めは、先ほどよりもぼんやりしてきた。登ってきた道をしばらく引き返し、ヤビツ峠への道から分かれて表参道を下る。こちらの登山道は、ヤビツ峠からの道よりも岩がごろごろしていて歩きにくい。こちらにも若い登山者が多い。「あの声は何だろう?」という若者に、「ツツドリという鳥だよ」と教えてあげる。7人ほどいた若者のグループとも、みなさん楽しく話をしている。

16丁目を過ぎ、ゆっくりと下って行く。蓑毛越の手前の分岐で、蓑毛方面に下って行く。林道を2回ほど横切り、近道を下っていくと、ようやく茶湯寺の入り口のようなところに出て登山道が終わりになる。トイレがないので、休憩しないでバス停まで行こうということになる。ここで休憩しなかったことが大正解。バ

ス停に着くと1分ほどでバスが発券するところだった。

思ったよりも下りがきつくて参ったとSさん。Mさんもがんばりました。お疲れ様でした。

記：網干



大山山頂にて

《参加者の感想》

大山は比較的楽な山だと思っていましたが、私たちの下りルートは傾斜がきつく、手こずりました。今回大変驚いたのは若い登山者が圧倒的に多かったという事です。仮にロープウェイを利用しても頂上まではかなりきつい道です。多くの人が、大変でしたがまた山に來たいと思った事でしょう。嬉しい発見でした。

記：M.Sさん

コースタイム

ヤビツ峠(10:05)…大山(11:50-12:55)…蓑毛分岐(15:25)…蓑毛(17:03)

講習会報告

★岩登り技術講習会（鷹取山）（3月27日）

参加者 会員(障害者1、健常者5名)

今日は朝晩の天気不安定で、落雷や雷が降ることもあるらしい。それでも、昼間は雨は降らない予報なので、計画通り実施することにする。実際には、青空が広がり、風は少し冷たかったものの、太陽の恵みを受けて実施するこ

とができた。



巨田ハングに取り付くYさん

まずは、子不知の3級ルートに登る。ここは全員クリア。次にすぐ隣にある戸田ハンクに挑戦する。ここは女性には厳しいが、若く腕力のある男性が揃ったのでチャレンジすることにする。



ビギナーフェースを登った M 君

下部の大きなホールドを持ち、体を左に振って今まで見えなかった足場に左足を置く。右足はよいスタンスがないので少しだけ上に上げて、次に右手をホールドから離して上のホールドを掴む。みんなは、このとき、右手をなかなか離せなかった。両手で持った大きなホール

ドを持ちながら、体を岩にひきつけ、できるだけ体を上げる。そして、右手を離して上のホールドを持つのだが、みなさんなかなか体を引きつかられず、右手を話す状態に持っていけない。どうしても順手で懸垂を何度かできないとここの突破は難しい。次回の課題としよう。

昼食後、再度戸田ハンクを試みたが、なかなかクリアできなかった。次は、ビギナーフェースに行く。ここでは2番目に簡単なルートなのだが、そこは垂壁。バランスを要求される。みんながざらざらですべると言ったホールドを使えるかどうか成功の分かれ目になる。バランスよく岩場に立っていると、腕に力を入れる必要がないので、ざらざらであってもバランス保持には問題のないホールドだ。

このルートは、男性陣は全員成功。女性陣は次回の課題とする。 記：網干

コースタイム

10:00～16:00 まで鷹取山の岩場で実施

個人山行報告

★西穂高岳独標(5月3日～4日)

参加者 会員(障害者1名、健常者3名)

☆5月3日

恒例のゴールデンウィーク個人山行は、西穂高岳独標とした。連休前半には北アルプスで多くの事故が発生したため、後半に計画していた山行を中止したグループも多いのではないだろうか？ 我々は天気と相談しながら、無理をしない範囲で雪山を楽しむこととした。

夜行バスで上高地に到着。今回は帝国ホテル前で降りる。ホテルの方が、バス停まで挨拶に来て、荷物を持ってくれるという。私たちは山に登るだけなので、自分たちで荷物を持ちますと言うが、それでも持ちましようかと気遣う青

年だった。

前日に来て上高地に泊まっていた H さんが迎えに来てくれる。梓川の畔のベンチで朝食とする。雲が広がっているが、まだ日も差している。朝は寒いくらいだが、これから暖かくなるだろう。朝は野鳥たちが賑やかだ。キビタキがすぐ近くでさえずっている。歩きはじめると、ゴジュウカラやコガラ、アオジ、コマドリ、センドイムシクイ、ミソサザイなどの歌声も聞こえた。

登山口で登山計画書を提出して、門をくぐって登っていく。今回は、H君に先頭を歩いてもらう。少し速いペースだが、黙ってついて行く。足下にはニリンソウやエンレイソウが咲いている。

登山道は次第に急登となる。しかし、まだ全く雪はない。中尾根の1,950mピークで休憩する。この付近から雪が増え始める。宝水はもう流れていた。ここからはほぼ完全に雪の上となる。

雪の急坂もぐんぐん登っていく。衣笠の池近くの窪地では、14人パーティーが降りてきた。そこを過ぎて見晴らしの良いところに出ると、焼岳と乗鞍岳がよく見えるようになる。さらに登って西穂山荘手前まで来ると、これから目指す独標と、さらに高いピラミッドピークが見えてくる。



独標を目指す

西穂山荘でお昼を食べて、独標を往復することにする。不要な荷物は小屋に置いていく。

稜線の登山道にはほとんど雪がない。一部残雪の上を通るところがある程度だ。独標とピラミッドピークが間近に迫ってくる。右手には前穂も見えるようになる。左にては笠ヶ岳と抜戸岳だ。すばらしい展望であるが、空はどんより曇ってきた。しかし、風は強いと感じるほどではない。



独標山頂直下の岩場を登る

丸山を過ぎて、長い登りを頑張ると、目の前に独標が現れる。先行パーティーの2人組が下っているのが見える。視覚障害のあるKさんをサポートしながら岩場をトラバース気味に通過する。そして、コルにザックをデポし、空身になって独標にのぼる。岩場の登りはKさんは得意だ。スムーズに登っていく。雪は全くない。



独標山頂にて

独標に着くと、これまで見えなかった奥穂と西穂から続く稜線が見えるようになる。雪は少ないが、雪と岩の山を見るとうれしくなる。西穂の左手には、双六岳、黒部五郎岳、鷲羽岳も見えている。三俣蓮華岳は、双六岳の尾根の陰で見えないのだろう。

独標で写真を撮った後は、そのまま引き返す。下りはHさんが慎重にKさんのサポートをしてくれる。西穂山荘に着いてホッと一息。今日の西穂山荘は、4パーティー13人だけしか泊まっていたかった。何でも西穂のロープウェイが強風で止まっているため、みんな登ってこられないらしい。今日、山荘に泊まった1パーティーは、新穂高温泉から上高地まで移動して、西穂山荘まで上がってきたらしい。根性のあるパーティーだ。

☆5月4日

夜半、強風の音が常に聞こえていた。相当強い風が吹いていたのだろう。しかし、雨音はほとんどしなかった。明け方になると雨音もするようになった。

テレビで雨雲の様子を見たり、小屋の気象予

報土の方の解説を聞いたりして、雨が7時頃には止むだろうと予想する。思った通り青空が広がってきたぞと思うと、また雨が降り出す。しかし、確実に回復してきている。



2 日目は青空が広がった

青空が広がったところで、もう一度上まで上がって展望を楽しむこととする。雨上がりの澄んだ空気の中で、雲がどんどん消えていく。焼岳や乗鞍岳がすっきり見えるようになり、笠ヶ岳も見えてきた。前穂高岳も見えてくる。双六岳方面はすっきり青空だ。まだ雲が広がっている奥穂方面も次第に雲が消えていく。



焼岳と乗鞍岳を背に

丸山まで登って展望を楽しみ、下山にかかる。最高の青空と展望に出会えて、とてもラッキーだった。下から山荘に泊まった他の人たちも登ってきた。しかし、いつの間にか雲が流れてきて周囲の山を隠す。その雲も30分もすればとれただろう。私たちは、西穂山荘の上にある雪の斜面でグリセードを楽しむ。

青空とまぶしい陽光に照らされて、雪の斜面

を下って行く。登りとは比べものにならないほどの短時間で。今回は、下りの時に慎重にアイゼンをつけたKSさん以外は、アイゼンと雨具は一度も使わなかった。



丸山にて

急坂を頑張って下り、上高地に到着。急に人が増える。完全な観光地だが、上高地はやはり別世界。アオジが黄色いおなかを見せてさえずっている。

いつものアルペンホテルの風呂に入って汗を流してバス停に向かう。足早に歩く私たちの頬を気持ちよい薫風が流れていった。

記：網干



独標から見たピラミッドピークと奥穂

コースタイム

- 5/3 上高地(西穂登山口)(6:15)…西穂山荘(10:50-11:35)…独標(13:30-13:40)…西穂山荘(15:05)
- 5/4 西穂山荘(8:50)…宝水(9:40-9:50)…上高地(11:30)

その他事業報告

★第15回視覚障害者全国交流登山大会広島大会に参加

広島県の歩く回「友遊」主催の第15回視覚障害者全国交流登山大会広島大会に、当法人から6名が参加した。

1日目は、開会式と代表者会議、その後、夕食と世界遺産説明、登山コース説明があった。

2日目がいよいよ登山の日。博打尾コースを登り紅葉谷コースを下るハードコース、大聖院コースを登りロープウェイで下山するミドルコース、登り下り共ロープウェイを利用するソフトコースに分かれて登山を実施。

山仲間アルプの6人は、それぞれ2人ずつ参加し、ハードコースでは2班の班長、ミドルコースでは4班の班長、ソフトコースでは2班の班長を務める大活躍。私はハードコースに参加した。



宮島への連絡船にて

私以外は全員六つ星山の会の会員の方たちの2班に入った。ホテルから桟橋前広場まで移動して、ストレッチ。その後、班毎に出発する。

鹿がどこでも普通に歩いている。大鳥居には朝日が当たって赤がいっそう引き立っている。厳島神社の脇を通り、紅葉谷公園へと緩やかに登っていく。

ここから一般の地図にはない博打尾コースに入る。歩く会「友遊」のみなさんが何度も下見をして、安全を確認してくださったおかげで、楽しいコースを歩くことができる。本当に感謝です。



厳島神社の大鳥居

ふもとが見えるところで、広島労山の方が、博打尾コースにまつわる話をしてくださる。さらに登っていくとロープウェイが見えてきた。そして山頂も見えてくる。

もう山頂までの標高差がそれほどないと思われるころ、ロープウェイかや谷駅に着く。ロープウェイの人はここで乗り換えるらしい。今回のコースの一番の難所は、ここから獅子岩駅までの間にあるらしい。

少し歩くと、花崗岩の岩をよじ登るようなところがある。ここと次の岩のトラバース気味のくぐりが一番の難所だった。広島労山の方がロープを設置してくださっている。ここでも感謝だ。

獅子岩駅に着くと、山頂がよく見える。花崗岩の岩肌がすばらしい。神聖な場所なので、地元の人たちはクライミングしないのだろう。ハーケンをひとつだけしか見つけられなかった。

紅葉谷への分岐を過ぎ、弥山本堂で霊火堂で沸かされたお湯をいただく。かわいいお地藏さんがいくつか設置されていた。観音堂、くぐり岩と過ぎていくと、ようやく山頂に到着した。お昼を食べた後、展望台に登る。近くの江田島や広島方面が春霞の中に淡い色で見えている。一箇所だけ大鳥居が見えるところがあった。江田島の右手奥は四国方面。澄んだ空気の冬場ならきっと見えたことだろう。



下山は、紅葉谷コースを使う。ホテルに戻ると、しばらくは自由時間。厳島神社に行く人たちもいたが、私は久しぶりに会った六つ星の人たちと部屋で交流する。

夜は、夕食と団体紹介、親睦交流会、さらに自由交流となる。歌や踊りを楽しんで消灯となる。

☆第 13 回定期総会開催

5月29日（日）に第13回目となる定期総会を開催しました。1号議案から3号議案ま

る。

3日目は、閉会式の後、山仲間アルプのメンバーは広島観光をする。六つ星の視覚障害者Mさんがボランティアの人と一緒に付き合ってください。帰りの飛行機まで時間は十分あるので、広電で原爆ドームまで行く。原爆記念館も見てから広島駅まで歩く。最後に広島城も見てきた。

遠くへの旅だったが、いろんなことを楽しむことができた。また今回のとりまとめをしていただいた歩く会「友遊」のみなさんのおかげで多くの方と交流することができました。多くの苦勞があったと思いますが、主催していただいたことにただただ感謝です。そんな思いを胸に帰りの飛行機に乗り込んだ。 記：網干

各種連絡事項

▲登山の山の変更及び一部中止のお知らせ

9月3日～4日に計画していた登山知識及び技術向上コースのナルミズ沢ですが、詳細計画を検討した結果、行程的に非常に厳しく、参加できるメンバーが極めて少人数に限られるため、苗場山に変更します。同じ月日で1泊2

日です。

また、9月24日～25日に計画していた共に楽しむ登山の八幡平ですが、事務局都合により中止とさせていただきます。

会員情報

◎新入会員のお知らせ

3月以降、下記の方が新しく入会されましたので、よろしくお願いします。（敬称略）

正会員

2名

未成年会員

1名

●退会及び休会のお知らせ

残念ですが、3月以降、下記の方が退会されました。(敬称略)
5名

また、休会の方が1名いました。

編集後記

・理事長のつぶやき

この4月で、山仲間アルプ設立から13年となりました。これまでにいろんな方との出会いや別れがあり、常に学びの連続でした。ある方から人生は楽しくなければ意味がないという話を聞いたことがあります。しかし、人生は決して楽しいことばかりではありません。苦しいこともあり、嫌な思いをすることもあります。これから先を心配して眠れないことも多々あります。でも、それら楽しくないことは決してマイナスではありません。そこから多くのこと

が学べます。

そう思ったとき、私は人生の楽しみよりも「喜び」を大切にしたいなと思いました。自分が苦しい状況にいても、喜んでくれる人がいれば、その喜びを自分の喜びとして受け止めることができます。

山仲間アルプの運営は苦しいことも多いですが、だからこそおおくの喜びがあります。喜びを大切に、もう少しがんばりたいなと思います。

・次回発行予定は、9月です。

参加申し込みやお問い合わせは事務局まで

〒276-0022 千葉県八千代市上高野 1161-1-208

NPO 法人山仲間アルプ事務局 網干 勝

TEL.047-484-8308

障害の有無も、年齢も、男女も関係なく、みんなで山を楽しみたいね。
自然は、誰に対しても平等だよ！！

